




# 事故防止チェックポイント

(2023年1月)

市町村からの報告の中から、参考となる実際にあった事例、対応策をチェックポイントとしてまとめましたので、紹介します。できる限り対策をし、事故が起きにくい環境をつくる工夫をしましょう。

なお、チェックポイントの番号は、「具体的事故発生状況」と対応しておりますので、併せて御確認ください。

## ○ 事故防止チェックポイント(室内)

<p><b>【保育室】</b></p> <p>②④ピアノの椅子は転倒防止されている。</p> <p>②⑥②⑦はさみや大型積み木等、事故の可能性のある遊びは保育士がそばで見守る中に行っている。</p> 	<p><b>【乳児室・ほふく室】</b></p> <p>①⑥テーブルを使わないときには片づけて、クッション材等でカバーしてある。</p> <p>①⑨柵（ベビーゲート）は大人がまたげないようにしている。</p> <p>②⑤両手に車輪のついた玩具を持って遊ばないようにしている。</p> 	<p><b>【トイレ】</b></p> <p>①②トイレのドアは指挟み防止がされている。</p> <p>○トイレの様子を保育士が把握している。</p> <p>★「トイレに行く」と言ってそのまま所在不明となる事故が報告されています。</p> 
<p><b>【廊下】</b></p> <p>①④カラーコーンを置くなど、走りにくい環境になっている。</p> <p>①④「止まれ」の足跡を床につける等、廊下に飛び出さないよう工夫されている。</p>		
<p><b>【玄関】</b></p>  <p>○玄関のドアを保護者が開閉する場合は、必ず施錠するよう周知してある（掲示、口頭説明、園だより等）。</p> <p>★園外へ出て行ってしまったという事故が報告されています。</p>	<p><b>【遊戯室】</b></p> <p>①③リズム遊びは園児同士間隔を空けて行っている。また、動きは園児の年齢に合っている。</p> <p>①⑨跳び箱は、補助の知識を持った保育士が側についている。</p>	
<p><b>【その他・全体】</b></p> <p>②③手拭きタオル掛けは、フックが内側になっている。</p> <p>①②窓、ドアは指挟み防止がされている（開き戸の場合、蝶番側の隙間も注意）。</p>		

## ○ 事故防止チェックポイント(戸外)

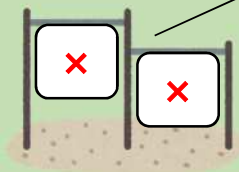
⑱部屋に入るとき等、移動の際は複数の保育士で連携をとっている。



⑥うんていや鉄棒の下にマットを敷いている。

⑥保育士がそばにいるときに遊ぶ。

⑦使わないときは、一目でわかるようなプレートを付けている。



⑲ドッジボールは広い場所で行っている。

⑲手首、足首など回して準備体操をしている。



⑩大型の遊具はルールを決め、園児に周知してから遊んでいる（高い場所から飛び降りないなど）。



①鬼ごっこはルールを決め、園児に周知してから遊んでいる（遊具を使わない、玩具を持たない、範囲を決めるなど）。

②定期的に園庭整備を行い、でこぼこや滑りやすい箇所がない。

④寒い日は準備運動をしている。



⑧滑り台はルールを決め、園児に周知してから遊んでいる（逆走しないなど）。

⑲段差、頭を打ちやすい滑り台下等、危険な場所はプランターなどで物理的に通れないようにしてある。

⑮縄跳びやフラフープなどの使い終わった玩具は片づけている。



⑪ブランコは靴を履いて遊んでいる。

### 【その他・全体】

③遠足等行事の後で気持ちが高揚していないか。

③午睡をやめた直後など、疲れが出やすい環境でないか。

⑤大勢で一か所に向かって走って移動する時は、少人数ずつ移動したり、整列して移動したりするなど園児同士がぶつからないよう配慮している。

⑰園児が登って危険な場所には、登らないよう工夫がされている。

## ○ 具体的事故発生状況

### (1) 戸外遊び中に転ぶ、ぶつかる

園庭遊び中に走っていて転んだり、他児とぶつかったりして骨折をする事故が多いです。防ぎにくい事故ではありますが、以下のような対策を行った例もありますので、参考にしてください。

	事故誘因	問題点	対応策（例）
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢で鬼ごっこをしていたため、小さい子と衝突してしまった。</li> <li>・遊具を使って鬼ごっこをしていた。</li> <li>・石を手に持っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールが徹底できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭に出る前に遊び方を園児と確認する（鬼ごっこの時には遊具に入らないなど具体的に）。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地面がでこぼこだった。</li> <li>・乾燥していて滑りやすかった。</li> <li>・安全マットの上に砂があり、滑りやすい環境だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭の整備が不十分だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩化カルシウム、にがり散布する。</li> <li>・石を拾う、水をまく、トンボをかける。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午睡をやめた次の日だった。</li> <li>・遠足後で、園児の気持ちが高揚していた。</li> <li>・コロナで園児たちの運動能力が落ちていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の体力や体調を把握していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのときの園児の体調、体力を考慮し、活動を考える。</li> <li>・身体を休ませることが出来る場所をつくる。</li> <li>・様々な運動遊びを取り入れ、身体作りをしていく。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒い時期で身体がほぐれていない状態だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の身体の状態を把握していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒い日は保育者と準備体操をして身体をほぐしてから遊ぶようにする。</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭の特定の場所に移動する時に、クラスの園児が一斉に走って移動した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の動きを想定していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数ずつ移動する。または、整列して移動するなど、落ち着いて行動する。</li> </ul>

### (2) 遊具使用中の事故

遊具使用中の事故も非常に多くなっております。それぞれの遊具ごとに、以下のような具体的な対策を行った例もありますので、参考にしてください。うんてい、鉄棒、滑り台は戸外での自由遊び中の事故が多いですが、跳び箱は設定保育中の事故が多くなっております。

	事故	問題点	対応策（例）
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外遊び中、うんてい、鉄棒使用中に落下し、骨折。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マットが敷いていない。</li> <li>・保育者が他児の対応をしていて見ていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用時にクッション性のあるマットを敷く。</li> <li>・保育士同士連携を取り、遊具には誰かが必ず付く。</li> </ul>

⑦	・保護者引き渡し後、園児だけでうんてい、鉄棒で遊んで落下し、骨折。	・うんていで遊ぶ時間、遊ばない時間が明確になっていない。	・遊ばない時間は園児にわかりやすい掲示をする等、遊ぶ時間、遊ばない時間を明確にする。
⑧	・滑り台を逆走し、滑り台の上にいる園児と衝突、もしくはバランスを崩して転落し、骨折。	・ルールを徹底できていない。	・園庭に出る前や、遊ぶ前に遊び方を園児と確認する。 (逆走しない、飛び降りない等) ・滑り台にガードをつける。
⑨	・設定保育での跳び箱使用中に指や腕に負担がかかり、骨折。	・保育士に補助の知識がなかった。	・跳び箱を行う前に、補助する知識を保育士間で共有する。
⑩	・戸外遊び中にジャングルジムから飛び降り、骨折。	・ルールを徹底できていない。	・園庭に出る前や、遊ぶ前に遊び方を園児と確認する。 (飛び降りない等)
⑪	・ブランコ中に足の甲を地面に擦り付けて骨折。	・靴を履いていない。	・ブランコは靴を履いて遊ぶ。

### (3) その他事故事例

その他の実際に起きた事故と、対応策になります。

	事故	対策例
⑫	・トイレや、保育室の窓、門扉で指を挟んで指切断、骨折、損傷する。	・ドアストッパーを付ける。(開き戸の場合、蝶番側の隙間も注意)
⑬	・リズム遊び中に他児と衝突、転倒し、腕を骨折する。	・園児同士の間隔をあける、年齢、能力にあったリズム遊びをする。
⑭	・トイレや、手洗いなどに行った時に、廊下で園児同士が衝突し、骨折する。	・止まれる足跡を床につけて、飛び出さないようにする。 ・カラーコーンを置いて走りにくい環境にする。 ・保育者がついていく。
⑮	・園庭に落ちていた長縄やフラフープを踏んで転倒し、骨折する。	・長縄や、フラフープ等を使わないときにはすぐに片付ける。
⑯	・テーブルに激突し、口腔内受傷。	・使わない時は机を端に寄せ、牛乳パックで囲いをつくり、ガードする。
⑰	・登ってはいけない場所に登り、転落し腕を骨折する。	・登ってはいけない部分に園児の描いた絵を貼る。
⑱	・活動の切れ目の移動時に転倒したり、他児に手足の指を踏まれて骨折する。	・移動時はフリーの保育者に補助に入ってもらおう。

⑱	・園児を抱いたまま柵をまたごうとして転倒し、園児が骨折する。	・柵を高くし、またげないようにする。
⑳	・門の近くの段差で躓き、骨折。	・段差などは、プランター等を置いて物理的に通れないようにする。
㉑	・ドッジボール中、狭い通路(手洗い場と園舎の間)にボールが転がっていき、取りに行ったときに他児と激突し、骨折。	・広い場所(狭い通路などが近くにない場所)でドッジボールを行う。
㉒	・ドッジボール中に小指にボールが当たり、骨折。	・準備体操をしっかりと行う。
㉓	・タオル掛けのフックに衝突し、口腔内受傷(傷口を縫う)。	・フックが外側にあるものから、内側にあるものに変更する。
㉔	・ピアノの椅子を園児が動かしたところ、椅子が転倒し足の指に当たり骨折。	・ピアノの椅子は園児が入らない場所に固定する。
㉕	・両手で玩具の車を持ち、床で走らせて遊んでいたときに前のめりにバランスを崩して転倒。骨折。(2歳児)	・低年齢児については、両手に車輪のついた玩具を持って遊ぶことは危険だと保育士が認識する。
㉖	・はさみ使用時に、友達が持っていたタフロープを切ろうとして、友達の指を切ってしまう。	・そばで見守るようにし、保育士が離れる際は子どもの姿が把握できるような位置を意識する。
㉗	・大型積み木を跨いだ状態で指を積み木の下に入れて運んでいるときに、バランスを崩し座ってしまい、指を裂傷、骨折。	・大型積み木の使い方を園児、職員で決め危険がないよう徹底する。 ・大型積み木を出す際は担任が付くか他の保育士の応援を依頼する。